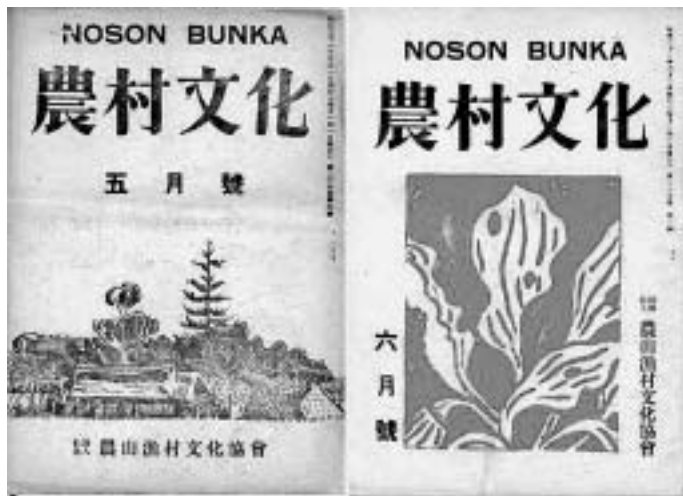


農家に学び、農家とともに歩む―「農村空間」の豊かさを満喫できる雑誌 「現代農業」の歩みと、「現代農業」の今



農文協発行の「現代農業」は、敗戦直後の復刊以降、二〇〇五年二月号で七〇〇号を迎える。それは、農家に学び、農家とともに歩んできた歴史であった。農家・農村の底力に支えられてきた「現代農業」は今、農家・農村から地域にむけ、都市にむけ元気を発信し、豊かな農業・暮らし・地域をつくる総合実用誌として歩み続けている。

「現代農業」の前身

「農村文化」復刊第1号

「農村文化」1946（昭和21）年5月号（ここから数えて「現代農業」は2005年2月号で700号となる）

「現代農業」の源は1行、発行が正常になった922（大正11）年には5月号からである。創刊された「農政研究」5月号では「農民民主小作争議などの社会問題 義化」を特集し、多くの議論する場として国会 革新的執筆者が顔を揃え、議員、農政記者、学者たち。再建農文協の歩みが大日本農政学会を組織し、機関誌「農政研究」民に役立つ文化運動をを進行された。その後「農村文化」を「農村文化」と改題。敗戦後を中心とする農村の読書の46年に再刊1号を発 運動を推進していった。

農家への直接 普及方式を採用

「農村文化」1949・50（昭和24・25）年の2冊49年春から、農家を巡る大きく変わった。浪江慶回し、直接農民の意見をの連載講座「肥料の上手聞き、購読をすすめる直な使い方」第1回も、50接普及方式を開始。この年新年号の第39号から始方式によって農家の求め、これをまとにまとるものは、いわゆる文化 めた単行本「誰にもわか評論ではなく、生産に関する肥料の知識」は、10万する「農業技術と経営」部という当時としては記であることが明らかに 録の売れ行きを示した。なり、「農村文化」誌は



「農村文化」から 「現代農業」へ改題

1960（昭和35）年11月号・100頁

当時、日本農業は曲の稲作農家・片倉権次郎が角が流行語になったの増収技術の掲載が大きかった。61年「農業基本 なる反響を呼んだ。このよ法」が施行され、農業のうな農業情勢の中で、「現代化」が宣伝された。畜代農業に改題。その後、産（養鶏・養豚・酪農・肥「現代農業」は毎年1万育牛）の多頭飼育が叫ば部以上の増部を重ね、読れ、規模拡大が進行した。者は東北・関東を中心に農家の意欲も高く、山形 全国に広がった。

大幅増頁で 366頁に

1969（昭和44）年10月号

この年発行部数は14万 反政策」が始まる。翌70部を超えた。182頁の（昭和45）年から主張欄雑誌では読者の多様な欲を設け、第1回の主張は求に伝えられなくなり、「近代化路線にまどわざ本文・グラビア頁を倍増れるな」であった。それし、カラー口絵を設け、以降、農家の自給を重視生活・農政ページを大幅し、栽培技術の面でも、に拡大した。農業技術・化学肥料や農薬などに依経営誌から家族の誰もが存する農家からの脱却を読める総合誌へと変わった。この年から「水稻の減った。



全面カラー化へ

1997（平成9）年6月号・378頁

作物・家畜の姿や病害 除、「現代農業」は、自虫、田畑のようすはカラ 然の力を生かし、高齢者1写真でなければわかり や女性も楽しくでき、農にくいということから、村空間が豊かになるよう本文の全面カラーに踏み なる農家の「小力技術」を切る。この号の巻頭特集 精力的に紹介している。は「天敵生かして小力防



「現代農業」は四つの 顔をもつ総合実用誌

こうした歩みを経て、 第三の顔は、販売・経営今、「現代農業」は四つ の実用誌。直売所や産直、の顔をもった、総合実用 観光農園や農村レストラン、農業応援団など、地誌になっている。

第一の顔は、農業技術の 域住民、都市民を巻き込 実用誌。巻頭特集のほか、 んで経営を築く方法と事「イネ・水田活用」「野 例を豊富に紹介。

第二の顔は、暮らしの 第四の顔は、地域づくり 産「畜産」「施設・機械 の実用誌。集落営農、地情報」の六コーナーで、元商店街や食品企業を力身体にふりなく、作物や を活かす農工商連携な自然の力を生かす農家の どの、新しいコミュニティ栽培法や作業の知恵を紹 報を豊富に紹介。

第二の顔は、暮らしの 実用誌。菜園づくりから、 用誌である「現代農業」豆腐、味噌、ドブコクな は、農家・農村から地域どの手づくり食品、薬草 などにむけ、都市にむけ元 まで、農家ならではの豊 かな魅力を満喫できる雑誌かな自給の知恵を満載。でもある。

農文協

農家とともに歩んで700号

現代農業

「現代農業」は農家とつくる雑誌だから、栽培技術の工夫、暮らしの知恵、そして農村の魅力を満喫できます。

定価800円（〒1200円）
年間購読料9600円
（前払いで送料無料）

大豆の「健康力」！

健康食として広がる大豆。肥料としても様々な効果。最新の健康科学と加工品の作り方

おいしいご飯

米屋、農家、直売所：炊き方、保管法などご飯をおいしく食べるプロの知恵と技

落ち葉いまどきの活用

堆肥づくりは大変。省力土つくり、育苗・播種・定植に、無限の恵みを活かす新発想

土・肥料特集

有機物マルチで土ごと発酵、アミノ酸を効かせる、簡単生育診断法、竹肥料はか

700号記念号

2005年2月号
品種大特集
現代農業用語集
つき大増100頁

「現代農業」の記事の理解を深める、農家の技術・知恵が詰まった225語を解説。価格はいつもと同じ800円